

編集後記

皆様のおかげで、5号は最も順調に発行する事が出来ました。厚くお礼申し上げます。

この号で特筆すべき事は、巻頭に日本医師会会長高橋先生の「医師会と病院」という御原稿を掲載させて頂いた事です。御承知の如く、マ元帥勸告によつて発足し、審議の回を重ねつつある、内閣諮問機関の社会保障制度審議会は、去る10月13日の定例総会に於いて、愈々起草委員会案の社会保障制度九原則を審議するまでに至りました。即ち、日本の医療制度は、社会保障制度の観点から、国民の最高の専門的的代表によつて、その方向を決定されようとしています。かゝる時に當つて医師会を代表された高橋先生が、病院問題に対する深い関心を表明された事は、非常に意味のあるものとして読者はお読みになることと思います。

医療機関の中核である病院のあり方は、又医療制度上の重要なキーポイントである筈であります。従つて、病院と診療所の関係或は公的病院と開業医の関係という問題は、現実に直面した重要課題でありましょう。審議会がこの病院問題を正しく取上げて全医師会員が納得し、積極的に協力の出来る制度を発見される為には、病院そのものの正しいあり方が研究されていなければならない筈であつて、従つて従来日本で忘れられていたこの病院研究を、特にこの際急いでなしとげなければならぬでしょう。編集室も馬力をかけていますが、一般の病院関係の皆様方においても、どうぞ御高見発表の原稿をお待ちしています。

この号には龜谷氏の私立病院の問題を掲せさせて頂きましたが、この問題などは、医療行政の扱

い上早急に研究されるべき問題でしょう。春木先生の結核療養所に続いて、関根先生が精神療養所を取上げて登場されました。本号には亦、千葉の鈴木先生に手術場の問題を書いて頂きましたが、次号からは、綜合病院の各診療科のあり方について、それぞれ適当な方に御執筆願う積りです。病院経理の基本式が出来上りましたが、一般に病院経理、病院事務についての事務方面の方からの原稿を頂けないことを残念に思っております。各病院の経理状況の研究は、お互の病院運営に大きな参考になりますし、又今後の社会保障制度設計に、重要な原則を提供するものでしょう。編集委員側でも、その執筆者を探すことに努力しますが御関心の深い方は、遠慮なく名乗上げて頂き度いものです。質疑應答欄への御質問は、病院に関する事柄はなんでもお問合せ下さい。又人事消息、地方病院協会の消息、その他病院ニュースをお知らせ願えれば幸甚です。

この雑誌は、社会のいろいろの流れの中でも、その流れの中心部を流れて行く積りです。益々御支援を願います。終戦後五度目の寒い冬が近づいて参りました。病院内の暖房は御用意出来ましたでしょうか。心の炎だけで暖をとることもこの冬限りに致したいものです。寒い暗い木枯の社会から、病院の愛と科学のともしびに頼つて集つておられる患者さん方の為に、又そのお世話に日夜苦勞されておられる職員の人々の為にも。(編者)

【社告】ある病院に限り再三雑誌「病院」の未着を訴えられるところがあります。本社では発行直後正確に御送付申上げておりますから御注意下さい。これも病院管理の第1歩です。